自慢の宝 関心持って

岩手県北上市の中心部で26日、市民が地元の郷土食を一緒に食べるイベント「ビッグランチ」があった。約100人が歩行者天国に設営された食卓で各地区自慢のメニューを味わった。

イベントは、にぎわい空間を生むための社会実験「きたかみウォーカブルチャレンジ」の一環。市内5地区に伝わる、ひっつみ、そばなどの郷土料理や地元食材を使ったランチが用意され、参加者は約50㍍のテーブルに並んで語らいながら楽しんだ。

ランチイベント

家族で訪れた滝沢旦陽(あさひ)君(5)は「初めて食べた、いか餅がおいしかった」と笑顔を見せた。いか餅は口内(くちない)地区の料理で、ふも一緒に煮たイカの汁に餅を絡めたもの。山ワサビを使ったわさび餅と共に提供された。

ビッグランチを企画した同市出身の弘前大院生の大内裕太さん(24)は「地元に伝わる料理は地域の宝。子どもたちをはじめ、多くの人に関心を持ってもらえる機会になった」と喜んだ。

(大場隆由)



歩行者天国に置かれた食卓で一緒に郷土食を楽しむ参加者